

猫感染症検査

■猫コロナウイルス (FCoV)

★検査材料は遺伝子専用としてお送りください。

遺伝子以外の項目と重複している場合は必ず遺伝子検査用に材料を分けてください。

●2022年8月より、血清・血漿材料によるAGPの基準値をアップデートいたしました。

●2022年9月より、胸腹水によるAGPが検査可能になりました。

項目名	検査材料 必要量	送付 方法	所要 日数	検査 方法	検査項目の説明、注意事項												
FCoV 遺伝子★ (定性)	 胸腹水 脳脊髄液 0.3mL		5日 以内	RT-PCR	1. 健康例に対して FCoV 感染の有無と程度の確認はできません。このため健康キャリア、未発症キャリアの検査については FCoV 抗体検査をご利用ください。 2. 以下に本検査の FIP 診断に対する精度を示しております。なお、野外調査は現在進行中のため、下表中の値が今後変更となる場合もあります。 3. なお、ドライタイプ症例については血液材料ですが血清・血漿では感度がかなり低くなるため全血材料での検査をお勧めします。 <table><tr><th></th><th>特異性</th><th>感度</th></tr><tr><td>胸腹水材料</td><td>高</td><td>高</td></tr><tr><td>全血材料</td><td>中</td><td>中</td></tr><tr><td>脳脊髄液</td><td>高</td><td>中</td></tr></table>		特異性	感度	胸腹水材料	高	高	全血材料	中	中	脳脊髄液	高	中
	特異性	感度															
胸腹水材料	高	高															
全血材料	中	中															
脳脊髄液	高	中															
FCoV 定量遺伝子★	 全血 (EDTA 処理) 1mL		5日 以内	RT-PCR													
FCoV 抗体	 血清・血漿 0.03mL  脳脊髄液 0.1mL		3日 以内	ELISA													
FIP 診断のための検査																	
AGP (α1 酸性 糖タンパク)	 血清・血漿 胸腹水 0.05mL		3日 以内	LA	1. 弊社の AGP 検査は FIP の診断にご利用ください。その他の疾患や健康猫の基準値は設けておりません。 2. 過度の溶血材料については正確な結果がご報告できない場合があります。 3. 2022 年度 9 月より胸腹水による AGP が可能になりました。												

カットオフ AGP 値 (μ g/mL)	血清中 AGP 値				胸腹水 AGP 値	
	ウェット型		ドライ型		ウェット型	
	特異度 (%)	感度 (%)	特異度 (%)	感度 (%)	特異度 (%)	感度 (%)
550 (正常上限値)	38	100	38	100	32	100
1000	56	99	53	95	55	95
1500	70	97	64	83	66	94
2000	80	88	74	54	84	81
2500	93	55	84	23	93	44
3000	98	23	96	8	99	10
3500	100	5	100	0	100	0

特異度：FIP 肯定のための参考値

感 度：FIP 否定のための参考値

FCoV抗体検査 (当社 ELISA と IFA 法との比較)

当社 ELISA	IFA	当社 ELISA	IFA
< 100	→ < 100	6400	→ 800
200	→ < 100	12800	→ 1600
400	→ < 100	25600	→ 3200
800	→ 100	51200	→ 6400
1600	→ 200	≥ 102400	→ ≥ 12800
3200	→ 400		

中枢神経型 FIP の診断基準

- CSFからのFCoV遺伝子の検出
- CSF中FCoV抗体値2560以上かつ血清中FCoV抗体値/
CSF中FCoV抗体値(s/c)10以下

血清中 FCoV 抗体値の FIP 診断に対する特異性

抗体値	多頭飼育	単頭～少頭数飼育
≥ 102400	92%	ほぼ 100%
51200	89%	ほぼ 100%
25600	79%	98%
12800	62%	97%
6400	42%	92%

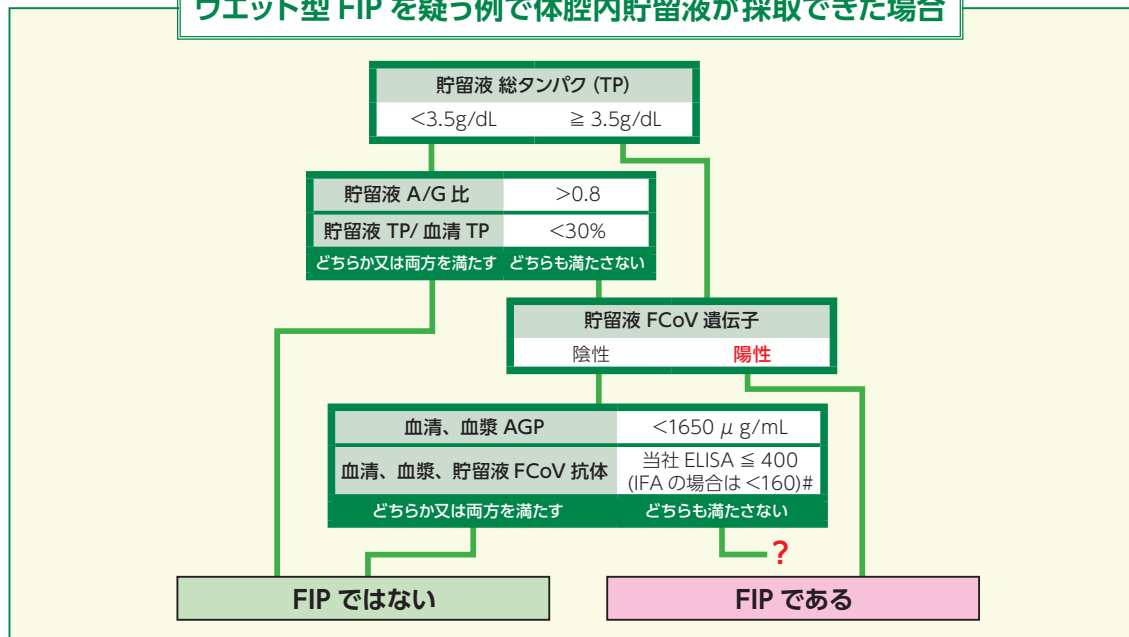
当社検査 (ELISA) と世界的な参照法 (IFA 法) との抗体価の比較 (他の検査所のデータを利用される場合に参考にしてください。)

※現在、単頭～少頭数飼育であっても、1年以内に多頭飼育の経験がある場合は、多頭飼育猫と判断してください。

【FIP 診断手順と基準】

- 現時点で最も適切と考えられる診断指針を以降に示しました。残念ながら、これでも診断にたどり着けない症例もありますが、これまで以上の精度が期待できるものと思われます。なお、診断が見つからない場合は目安として 2～3 週間後に基準値に適合しなかった項目を再検査することをお勧めいたします。

ウェット型 FIP を疑う例で体腔内貯留液が採取できた場合



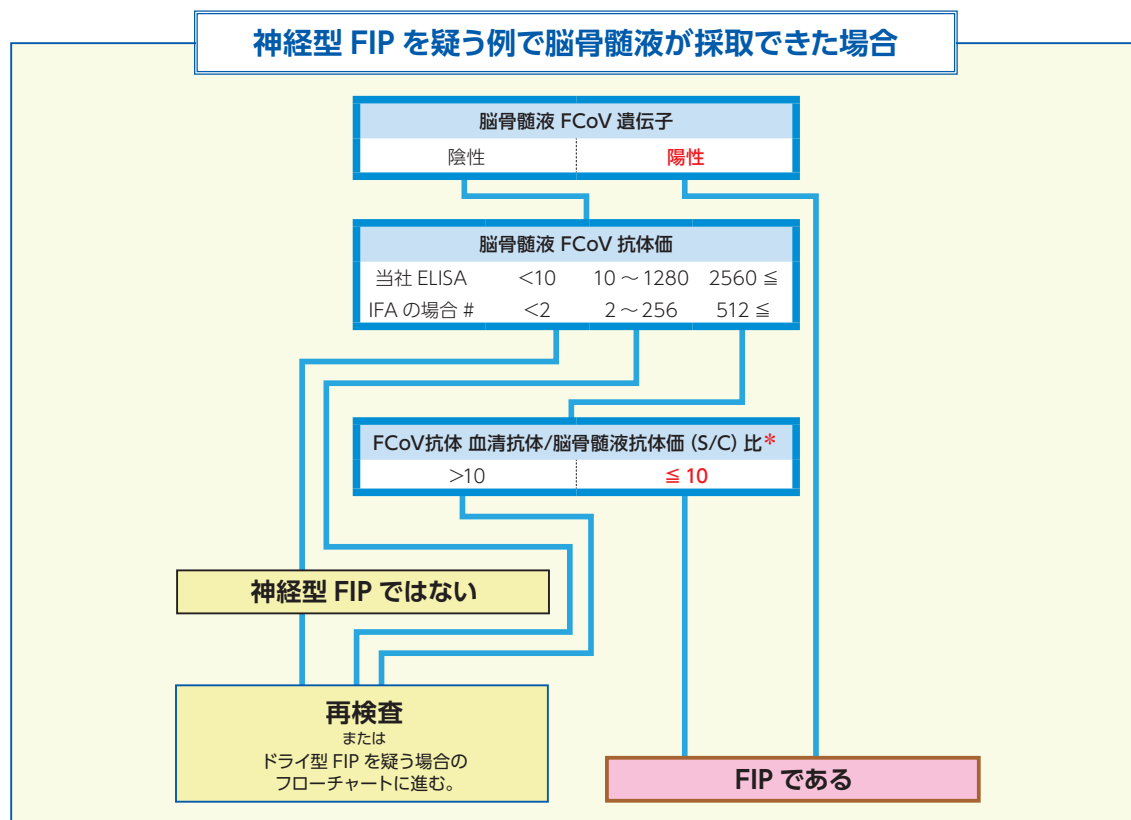
ドライ型 FIP を疑う場合(または 脳脊髄液や貯留液が採取できない場合)



* 特異度は臨床所見から FIP が強く疑われる例に対するもので、健康例や他の疾患の可能性がある場合はあてはまりません。

? 現状では診断は成立しません。日数をあけて再検査されるか、他の疾患の可能性を検討してください。

他社の抗体検査結果の場合は、世界的な参照法である IFA 法との相関性、換算法についてご利用の検査期間にお尋ねください。



*例) 血清抗体価 25600、脳脊髄液抗体価 5120 の場合 : $S/C=5$

他社の抗体検査結果の場合は、世界的な参照法である IFA 法との相関性、換算法についてご利用の検査機関にお尋ねください。